

令和3年度 大館市立花岡小学校 学校評価書(前期 ・年度)

A 学校教育目標

自立した子どもを育てる	
めざす児童像	人を大切にする子 学びを楽しみ, 広げ深める子 チャレンジングな子

B 本年度の重点目標

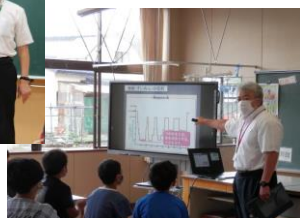
◎ 課題対応能力の育成

C 学校経営の特徴

◇課題対応能力を育成する学校行事, 児童会活動(チャレンジ活動) ◇明るく楽しい学級づくり ◇チャレンジ授業とベーシック授業 ◇開かれた学校づくり
--



低学年向け講座



高学年向け講座

県庁出前講座～インターネットセイフティー～



花岡シャイニングロード



飲酒喫煙防止教室



薬物乱用防止教室



いのちの授業

外部の専門の方による授業



5年職場体験

D 評価

自己評価Aと外部評価の評価区分	きわめて良好	自己評価Bの評価基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

I 人を大切にする子どもの育成

健康な心と体をつくろうとするとともに、規範意識をもって自他の心や人間関係等を大切にする人間尊重の精神を育んでいる。	自己評価A		学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
	前期	おおむね良好	良好	子ども、保護者、教職員の評価もよい。人を思いやる心が育っている。人間尊重の精神は道徳の時間でも育つと思われる。道徳の授業でさらに高めてほしい。
年度	良好	良好	健康に関わる人材活用が効果的に行われている。また、縦割り班活動を通じて、協力的な姿や縦のつながりの深さが見え、良好な状況である。アンケート結果は保護者や教員に比べて児童が低いので、よりチャレンジングな児童の育成に期待する。	
自己評価の改善概要と	【前期(→年度)】 食育指導、歯みがき指導では栄養教諭や学校歯科医と連携しながら指導を行うことができた。2学期には、インターネット使用に関する講義や大館市一斉メディアコントロール週間がある。引き続き各家庭に協力を依頼しながら指導を進めていきたい。一輪車や竹馬などのチャレンジ、運動委員会の企画・運営でのリレー大会実施など、体力づくりに向けた取組を行うことができた。2学期も児童の自主的な活動を奨励していきたい。自分の役割をしっかりと自覚し、進んで活動する児童が多く、安心感のある学級づくりがどのクラスでも行われている。後半も継続していく。			
	【年度(→次年度)】 食育指導に加え、後期は、薬物乱用防止教室や飲酒・喫煙予防教室を実施した。外部講師に依頼して専門的な内容を指導していただくことは、児童の学びが深まりとても効果的である。メディアに関しては、ネット依存の抑制に向けた北陽学区の共同実施による呼びかけがあり、委員会活動の活性化にも繋がった。前期にも増して縦割り活動を通して縦のつながりができた。日常の関わり合いがよい雰囲気であると保護者の声も聞かれた。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
1 心身の健康づくり	(1)生活習慣向上に向けた実践	生活習慣指導、食育指導、保健・健康教育等	3	4
	(2)継続的な体力づくりの取組と体力の向上	体力検定・なわとび運動等多様な遊びの奨励		
2 人間尊重の精神	(3)集団の一員としての自覚ある言動	縦割り班活動・委員会活動・学校行事等での活動	3	4
	(4)明るさ・活力・自他を大切にする学級づくり	学級指導・学級活動の充実 こども哲学		

【1に関するデータ】

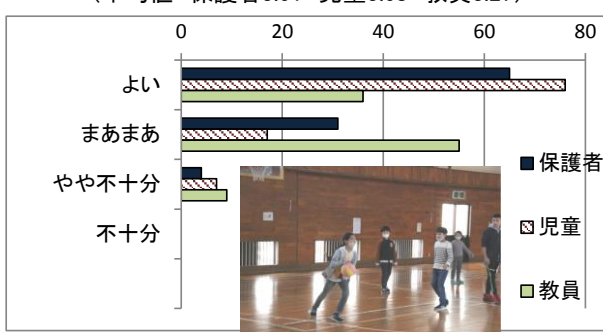
アンケート回答者 保護者51名、児童4、5、6年生41名、教職員11名

○生活習慣向上に向けた取組を行っているか。
(平均値 保護者3.80 児童3.54 教員3.82)



学校栄養士による食育授業

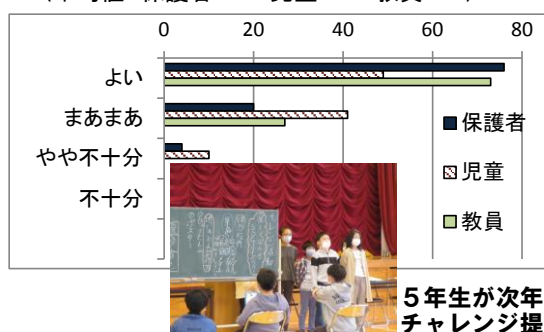
○継続的な体力作りに努めているか。
(平均値 保護者3.61 児童3.68 教員3.27)



委員会主催のドッジボール大会

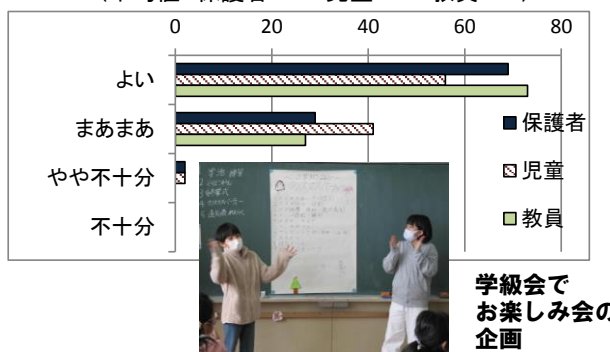
【2に関するデータ】

○集団の一員として自覚ある言動をしているか。
(平均値 保護者3.73 児童3.39 教員3.73)



5年生が次年度のチャレンジ提案

○明るく活力ある学級づくりが行われているか。
(平均値 保護者3.67 児童3.54 教員3.73)



学級会でお楽しみ会の企画

Ⅱ 学びを楽しみ、広げ深める子どもの育成

内発的動機付けに支えられた学びを楽しむとともに、互いの考えを共有したり多角的に考えたりするなど、学びを深める指導を行っている。	自己評価A		学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
	前期	おおむね良好	おおむね良好	おおむね良好
年度	おおむね良好	おおむね良好	おおむね良好	読書への取組は校内のみならず地域の施設やボランティアの活用もあり充実している。継続してほしい。児童の満足度に比べて、教師や保護者の結果はもっと伸びを期待するものになっている。課題対応能力の育成を目指して基礎基本の徹底を図ってほしい。

自己評価の概要と

【前期(→年度)】

保護者アンケートの「家庭学習や学習習慣の確立」に関する内容で、2の評価が12%であった。子どもの実態から、「自主的に学習を進められない」と感じていると思われる。個別に指導、声かけをし、児童の成長やよさを伝えていきたい。

後半は読書運動や読み聞かせ、図書館まつりも予定されている。年間を通して継続してきたことであるが、今後も継続し、学校での取組の様子をどんどん家庭に発信していきたい。

【年度(→次年度)】

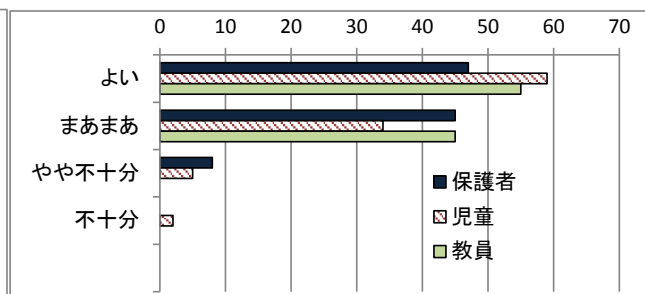
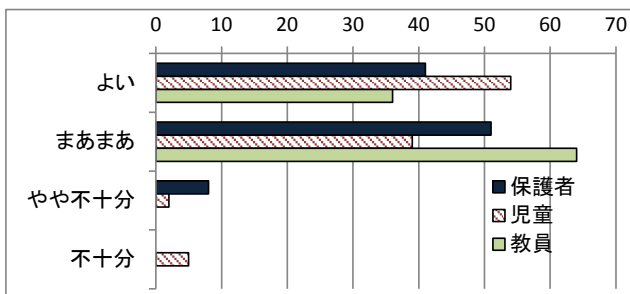
子どもたちが一人で読書に取り組む様子が多く見られるようになった。外部の方々による読み聞かせ活動を、一年間を通して継続してきたことが効果的に表れたのではないかと。今後も継続していきたい。基礎基本の定着や学習習慣の確立は今後も課題として捉え、学習内容の繰り返し指導や意欲付けを図ることを中心に進めていきたい。また、ICTを取り入れた指導に関しては職員研修の一つとして盛り込みたい。

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
3 基礎・基本の定着	(5) 基本的な学習習慣の定着	「学習の約束」「学び方」の徹底	3	3
	(6) 基礎・基本の徹底	基本を徹底する授業		
4 学びの多面化・深化	(7) 多様な学びの保障	主体的に学び合う授業	3	4
	(8) 読書活動の充実	図書館まつり、各種読み聞かせ、読書運動等		

【3に関するデータ】

○基本的な学習習慣が定着しているか。
(平均値 保護者3.33 児童3.41 教員3.36)

○計算、漢字、読み書きなど、学習の基本が身に付いているか。
(平均値 保護者3.39 児童3.49 教員3.55)



1年生も学び合い



複式学級の授業

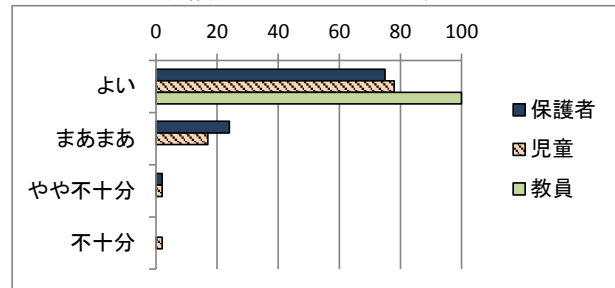
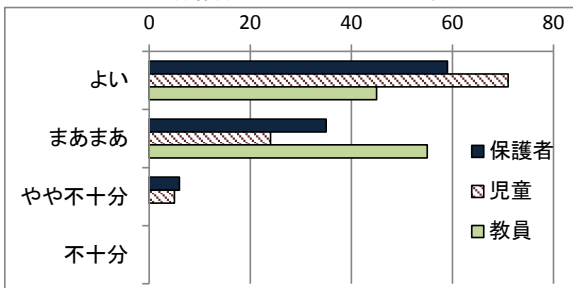


花矢図書館、ミラクルバナナ読み聞かせ



○学び合いの充実が図られているか。
(平均値 保護者3.53 児童3.66 教員3.45)

○読書活動が推進されているか。
(平均値 保護者3.73 児童3.71 教員4.00)



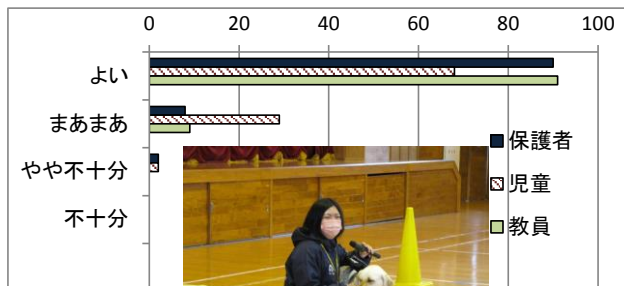
Ⅲ チャレンジな子どもの育成

自己評価A	学校関係者評価		学校関係者評価委員のコメント
	前期	年度	
挑戦意欲をもち、連携する力と創造性を発揮しながら主体的に活動する子どもを育てている。	良好	良好	何事にもチャレンジし、継続することは難しいと思うが、今後も挑戦してほしい。
	良好	良好	全校が一丸となって取り組んでおり、上級生が下級生をリードする様子も見られる。SDGsへの取組は、花小のチャレンジ活動をさらに効果的にしている。児童のアンケート結果の数値はもっと上げたい。児童一人一人の自己有用感をもっと伸ばすことができるように期待している。
自学 己校評 の価 改の 善概 策要 と	【前期(→年度)】 「チャレンジしたい」「自分たちでやりたい」という意欲がどの学年も高まっている。「課題を解決する力がついた」「周りを巻き込む力がついた」など、自分自身にどんな力が付いたのかを自覚する児童が増えてきた。その力を、行事やイベントの時だけでなく、日常化できるよう、さらに繰り返し指導していく。また、SDGsについての意識が高まってきているので、今後も子どもたちの視野を広げていきたい。		
	【年度(→次年度)】 SDGsへの理解が進み、後期はその知識を家庭や地域に広めたり、学年のチャレンジ活動に生かしたりできた。チャレンジ活動は、「やらなくてはいけないこと」ではなく、自分たちの「やりたいこと」に主体的にチャレンジしているからこそ、気概をもって最後まで取り組むことができている。活動の中で自分の成長を感じたり、成果や課題を次の活動に生かそうとしたりと、身に付いた力を日常化しようとする児童が増えてきた。		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
5 チャレンジ精神の高揚	(9)チャレンジ活動(学年・全校)の推進と充実	課題対応能力育成のための各学年及び全校の実践	4	4
	(10)創造性・連携する力の向上	創造性・連帯感を向上させる各種ミーティング 学級係・委員会活動等の児童活動 SDGsへの取組	4	4

【5に関するデータ】

〇いろいろな活動に、勇気をもってつながり、チャレンジしているか。
(平均値 保護者3.88 児童3.66 教員3.91)



盲導犬体験

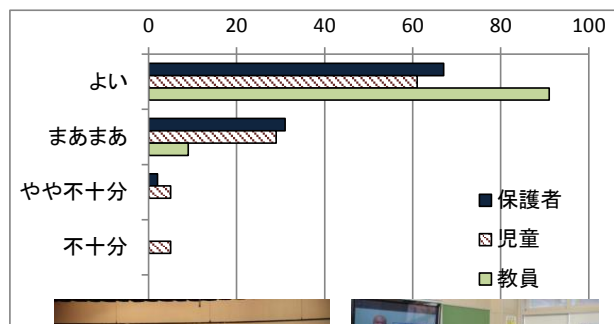
【保護者アンケート自由記述より】

・チアアップウォークやSDGsのバザーでは、子どもたちが楽しそうに生き生きと活動している様子が見られた。
・学年関係なく協力し合い声を掛け合う姿は他校にはあまりないことだと思うし、子どもたちにとっても貴重な経験になっていると思う。



SDGsバザーの開催

〇いろいろな行事で、自己有用感やよさの発見、発揮できているか。
(平均値 保護者3.65 児童3.46 教員3.91)



学習発表会



パラアスリートとリモート



上級生が下級生によさこいの伝授



よさこい練習後のミーティング

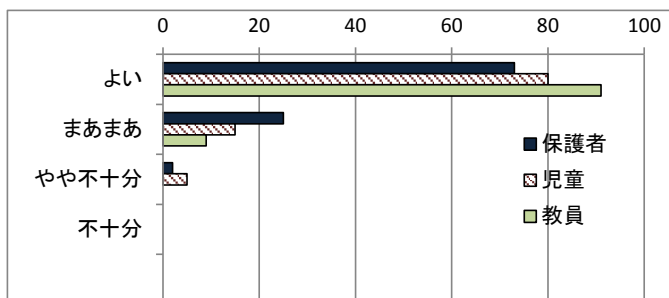
IV 保護者・地域との連携

学校の取組がわかりやすく保護者や地域に伝えられ、地域の教育力が有効に活用されている。	自己評価A 学校関係者評価		学校関係者評価委員のコメント
	前期	良好	
	良好	良好	データの通り、児童・保護者・職員ともよい結果であった。花小独特のハローワークは、特色あるものなので、今後とも地域と連携した活動を行ってほしい。
	良好	良好	地域人材の活用、地域教材の活用など、社会に開かれた教育課程を実践している。また、保護者アンケートには学校への感謝の言葉が多く、信頼関係が良好であることが分かる。これからも地域と共に子どもを育てることを進めてほしい。
自己評価の改善概要と	【前期(→年度)】 学級通信や学校報、ホームページ等で、学校の様子は保護者に確実に伝わっている。分かりやすいとか楽しみという、うれしい自由記述が多かった。児童や保護者の気持ちに寄り添って情報を発信してきたことが成果となっていると考える。今後も、職員で方向性を共にし、保護者や地域に情報を発信していきたい。 後半も、地域の方々の協力を得ながらクラブ活動や職場体験を行う予定である。安全・安心対策をしっかりとって、これまで同様地域のみなさんを受け入れていきたい。		
	【年度(→次年度)】 子どもたちのチャレンジの様子は、学級通信等で保護者に伝えている。保護者アンケートの自由記述には主体的に楽しんでいる子どもたちや、学年関係なく協力し合うよい雰囲気についての記述があり、保護者のみなさんがおたよりやホームページをよく読んでくださっていることが分かった。また、怪我や相談に対する学校の対応について感謝の記述もあった。次年度も、児童のがんばりを伝えることはもちろん、保護者や地域の要望に関しても誠実で素早い対応をこころがけていきたい。		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
6 情報の受発信	(11)各種たより等の充実と学校開放	学校報・学年だより等での発信 HPの定期的な更新 学校開放や保護者アンケートでの受信	4	4
7 地域との連携	(12)地域に対する愛着心や誇りを高める実践	学習・クラブでの人材活用 花岡チアアップウォーク、地域探検、職場体験、花小子どもハローワーク等	4	4

【6に関するデータ】

○学校報、学年だより、各種のおたよりは充実しているか。
(平均値 保護者3.71 児童3.76 教員3.91)



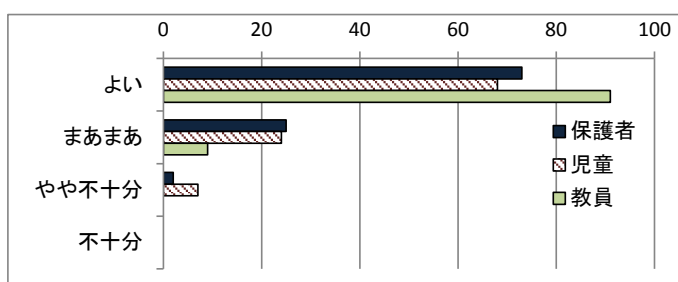
【保護者アンケート自由記述より】
・SDGsバザーの後、おたよりをいただき、活動の収入をどんなことに使っていくのかよく分かった。
【教員アンケート自由記述より】
・地域の方々のいろいろなバックアップがあって成立する活動が多いが、とてもよく協力していただいていると思う。子どもたちも広報活動をよくがんばっていた。



花岡版子どもハローワーク (花岡保育所 保育士体験・花矢図書館 司書体験)

【7に関するデータ】

○地域人材の活用、愛着心や誇りを高める実践がなされているか。
(平均値 保護者3.71 児童3.61 教員3.91)



家庭科ボランティア

タリア農家さんをお迎えして 一花一葉教室



民生委員のみなさんが子ども会参観 孫守隊・民生委員感謝の会